

# Micro Cleaner®

## MOLD REMOVER

### マイクロクリーナー カビリムーバー

改訂日: 令和3年8月23日  
株式会社タックアンドカンパニー  
東京都練馬区高松3-2-8  
TEL: 03-5848-9240

## 製品安全性データシート (SDS)

### 1. 化学物質等及び情報

化学物質の名称	マイクロクリーナーカビリムーバー
会社名	株式会社タックアンドカンパニー
住所	東京都練馬区高松3-2-8
担当者名	新井田 康介
電話番号	03-5848-9240
FAX番号	03-5848-9241
推奨用途及び使用上の制限	洗浄剤・塩素系漂白剤

### 2. 危険有害性情報

#### 【GHS分類】

物理化学的危険性	金属腐食性物質	: 区分1
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	: 区分4
	皮膚腐食性・刺激性	: 区分1
	眼に対する損傷性・眼刺激性	: 区分1
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 区分3(気道刺激性)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 区分2(全身毒性)
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	: 区分1
	水生環境有害性(長期間)	: 区分1

注) 上記のGHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については、「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」に該当する。

絵表示またはシンボル



#### 【危険有害性情報】

金属腐食のおそれ  
飲み込むと有害  
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷  
重篤な眼の損傷  
呼吸器への刺激のおそれ  
水生生物に非常に強い毒性  
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(全身毒性)

#### 【注意書き】

危険性 : 酸化作用のある酸と接触すると、分解して塩素(Cl<sub>2</sub>)ガスを発生し、金属類や天然繊維類を腐食する。

有害性

: 腐食性は苛性ソーダに類似し、酸性溶液との接触で塩素ガスを発生し、粘膜、呼吸器を刺激するが、呼吸による全身中毒は殆ど無い。  
目に入った場合は激しい痛みを感じ、すぐに水洗いしないと角膜を侵食する恐れがある。長期に亘って皮膚に触れると、皮膚炎、湿疹を生じる。ミスト(噴霧状態)を吸収すると、食道粘膜を刺激し、胃に穿孔を生じることがある。

環境情報

: 水中に徐々に分解し、無害な物質に転じる

### 3. 組成・成分情報

単一物質・混合物の区分

混合物

## 成分

- 次亜塩素酸ナトリウム
- アルカリ剤
- 界面活性剤
- 純水

## 4. 応急措置

### 皮膚に付着した場合

- ・直ちに大量の水で洗い流す。

### 目に入った場合

- ・直ちに清水で15分以上よく洗い速やかに本品持参の上、眼科医の手当てを受ける。
- ・コンタクトレンズを入れている方は外して洗眼する。

### 飲み込んだ場合

- ・大量の水を飲ませて吐かせずに直ちに口をすすぎ、水か牛乳を飲ませる。
- ・必要に応じて本品持参の上、医師の手当てを受ける。

### 吸入した場合

- ・気分が悪くなった場合は空気の新鮮な場所に移し、医師の診断を受ける。

## 5. 火災時の措置

### 消火材

- ・一般火災の場合は水を用いる。大量の有機溶剤や油類が混在する場合は泡、粉末あるいは二酸化炭素等の消火材を使用する。

### 消火方法

- ・水中散布方式が最も望ましい。水中拡散して、できるだけ塩素濃度を低下させ、有毒ガスの発生を抑える。

### 消火を行う者の保護

- ・消火作業は保護具を着用し、風上から行う。製品の蒸気やミストを吸入する可能性がある場合、空気呼吸器等の呼吸用保護具を着用する。注水にあたっては安全な距離を確保し、遮蔽物を利用する。また放水銃等を利用し無人化を図る。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項

- ・人体や衣服を損傷する恐れがあるので、早急によく水洗いをして除去する。
- ・また容器や付属品は常時点検し、絶対に漏れの無いよう努める。密閉場所保管は厳禁とし、通気を良くする。

### 環境に対する注意事項

- ・還元分解処理をするか、大量の水で洗い流す。
- ・有毒ガスが発生するので、通気をよくして防護対策をしっかりと講じる。

## 7. 取扱及び保管上の注意

### 取扱注意事項

- ・移動の場合は液漏れや塩素ガスの発生に注意し、環境、設備の防護対策をしてから行う。
- ・作業中に温度上昇、pH 低下(酸の混入を含む)、重金属の混入があると、酸素または塩素を放出するので注意する。
- ・誤って酸と混合した時は、直ちに苛性ソーダ、消石灰、重曹などのアルカリで中和する。
- ・発生した塩素ガス(Cl<sub>2</sub>)が周囲に拡散する恐れがある時には、関係者に連絡すると共に、風上への避難誘導などの措置を講じる
- ・体調のすぐれない時、風邪気味や極度の過労のときは、本品の使用を控える。

### 保管

- ・直射日光を避け、冷暗所に貯蔵する。
- ・幼児の手の届く所には置かない
- ・重金属(コバルト、ニッケル、銅など)が存在すると、触媒となり爆発的に分解促進するため注意する。
- ・金属を避け、遮光性の樹脂(プラスチック)または樹脂ライニングやコーティングされた鉄製容器に貯蔵する。
- ・ゴム製容器は長期間保管すると膨潤する場合がある。取扱い後はよく石けんで体を洗い、目や口内は特によく水で洗う。

## 8. 暴露防止及び保護措置

### 設備対策

- ・必ず通風(換気)を良くし、密閉した場所では絶対に取扱わない。

### 管理濃度

- ・設定されていない

### 許容濃度

- ・設定されていない

### 保護具

- ・眼に対する保護具...ゴーグル 手に対する保護具...ゴム手袋
- その他 ...保護衣(ビニール、ナイロン製)、ハロゲンガス用防毒マスク

## 9. 物理的及び科学的性質

外観・状態	淡い黄色液体
臭い	塩素臭
比重(密度)	1.05~1.12
溶解性	水と自由な割合で溶け合う
pH	12.0以上

## 10. 安定性及び反応性

引火性	なし
爆発限界	なし
発火性	なし
可燃性	なし
酸化性	あり(強力)
自己反応性	なし(空気,熱,光,金属などに極めて不安定で、徐々に有効塩素を放出する)
腐食性	酸化作用により、金属類,繊維類の殆どが腐食される。
混触危険物質	酸との接触やpHの低下により塩素ガスが発生する。
危険有害な分解生成物	酸との混合により塩素ガスが発生する。

## 11. 有害性情報

急性毒性	LD50 =RAT 経口 約 5,000mg/kg (配合推定)
皮膚腐食性/刺激性	重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	重篤な眼の損傷
呼吸器感作性/皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発癌性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ
呼吸性呼吸器有害性	データなし

## 12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)	水生生物に非常に強い毒性
水生環境有害性(長期間)	長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性
オゾン層への有害性	データなし

## 13. 廃棄時の注意

- ・容器は使用後によく点検し、漏れや変質を防ぐために、容器の変形,内部張り,塗装のクラック,剥離,残留物の有無を確かめ、よく水洗いする。
- ・廃液はそのまま放流すると土地,河川を汚染し、農作物,魚介類に影響を及ぼすので、そのまま廃棄せず、水で希釈してハイポや亜硫酸ソーダなどで塩素を除去してから酸性物質(クエン酸,グリコール酸,塩化アンモンなど)で中和して廃棄する。
- ・酸を使用して分解すると有毒ガスを発生するため、少量の場合は通気の良い場所で速やかに処理する。大量の場合は大気汚染の恐れがあるので、完全な塩素ガス吸収装置を用いて分解廃棄する。

## 14. 輸送時の注意

- ・腐食性が強いので、運搬容器は耐食性,耐圧性のポリオレフィン,塩化ビニール,FRP,ゴム製などの樹脂製やライニング処理した金属容器を用いる。
- ・直射日光,衝撃を避けて運搬する。なるべく長距離輸送は避ける。
- ・酸と絶対に接触させないようにし、酸類との混載は避ける。
- ・容器を他の物と共用してはならない。

## 15. 適用法令

・PRTR 法	:第一種指定化学物質 政令番号 224
・労働安全衛生法	N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド 約 0.6% 法第57条の2、施工令第18条の2 〔名称等を通知すべき危険物及び有害物〕 水酸化ナトリウム
・毒物及び劇物取締法	該当しない
・消防法	該当しない
・船舶安全法	腐食性物質
・航空法	腐食性物質
・水質汚濁防止法	施工令第3条 水素イオン濃度

## 16.その他の情報

\* 本資料は製品に関する情報提供を目的としたものであり、記載のデータや評価に関しては当該製品のすべての安全性やその他の特性を保証するものではなく、経験に基づきひとつの目安として参考にするものです。実際の使用にあたっては十分ご理解の上でお取り扱いください。